



TAKAMATSU ORNE完成

3月22日開業

JR四国が高松市のJR高松駅北側に建設を進めてきた新駅ビル「TAKAMATSU ORNE(タカマツオルネ)」が完成し、3月22日に待望の開業を迎える。充実したテナントゾーンや大屋根を備えた屋外広場を設けるなど、「出発地」であり「目的の地」となる仕掛けを随所に取り入れた。基本設計・監理は交建設計、実施設計は鹿島が担当。鹿島・四国開発建設・鉄建建設が営業線に近接し多くの制約がある難工事を工期内に高品質に完成させた。



マリタイムプラザ高松屋上からの全景



人工芝やウッドデッキのある屋外広場



カフェ/バーとしてもオフィスとしても使えるSHARE ROUNGE



自分たちが制作した壁面アートを前に笑顔を見せる学生たち

学生制作のパネルで彩る

「瀬戸内海の島々を舞台に開催される「瀬戸内国際芸術祭」をはじめ、芸術文化が盛んなアート県・香川。その玄関口となるJR高松駅に誕生したTAKAMATSU ORNEの北館4階に壁面アートスペース「ORNE ART GALLERY」が設置された。施設の整備とともに進捗していたのが

アートプロジェクト。GALLERYに展示される最初の作品を作るミッションだ。ORNEの環境設計やリーディングを担当したスペースがJR四国に提案し、地元香川短期大学に参加を呼び掛けて実現した産学連携の取り組みとなる。同大学の経営情報デザイン・アートコース1・2年生の有志約30人が参加。約6カ月を掛けて高さ1.3m、横16mの壁面に33枚のパネル計36枚を使用した。「瀬戸内海の穏やかな波」の中に丸っこいなど讃岐の名産品を表現した。香川県内の海岸を清掃しながら集めた海洋ごみを材料に用いた。リッターを務めた2年生の平田文香さんは「見た時に何の形かクイズのように楽しみ、環境問題にも思いをさせてほしい」と話す。

「人と人、人とまちをつなぐ」という施設のデザインコンセプトを体現した今回のプロジェクト。内田峻介スペース大阪本部クリエイティブ事業部企画デザイン部長は「地域の活性化につながることを期待を込めて、学生たちの作品は約半年間展示される予定。その後もGALLERYはさまざまな情報発信の場として活用され、アートで人と施設をつないでいく。」

■工事名称/JR四国高松駅ビル(仮称)新築他工事
■工事場所/香川県高松市浜ノ町1-20
■建築主/四国旅客鉄道株式会社
■敷地面積/15,567.88㎡
■延床面積/4,867.58㎡(商業棟・駐車場棟のみ)
■建築床面積/15,524.77㎡(商業棟・駐車場棟のみ)
■構造/S造
■階数/4階(商業棟) 地下1階地上3階塔屋1階(駐車場棟)
■設計・監理/株式会社交建設計(基本設計・監理) 鹿島建設株式会社関西支店(実施設計)
■施工/鹿島・四国開発建設・鉄建特定建設工事共同企業体
■工期/2021年10月1日~2023年10月31日



屋外広場からは高松シンボルタワーなどの景色が楽しめる

「出発地」であり、「目的の地」となる施設に

完成に寄せて

四国旅客鉄道株式会社 事業開発本部 高松駅ビル準備室担当室長 原田 宏樹

新・高松駅ビルは「県都高松の玄関口として、“時間、と”こと、を楽しみながら“ここが目的の地、出発地、となる施設”を開発テーマに、2022年3月から建設してまいりました。このたび開業を迎えられることは、関係者および地域の皆様のご理解とご協力の賜物であり厚く御礼申し上げます。

人が集う賑わい拠点に

新駅ビルが位置するサンポート高松エリアは、都市計画マスタープランにおいて、広域交流拠点として、多様な都市機能の集積と高度化を推進し、賑わい空間の創出が図られてきました。また、新駅ビル以外にも、香川県立アリーナ、徳島文理大学高松キャンパスおよび外資系最高級ホテルの建設も進められており、人流の更なる増加が予想され「人が集まり、賑わいあふれるエリア」の実現を目指しています。JR四国グループは、県都高松の顔にふさわしく、交流の促進、賑わいの創出および観光振興の一翼が担えるよう、今後も地域の皆様に喜ばれ、地域の一層の活性化に寄与することを目指してまいります。

建築設計のポイント

瀬戸内の穏やかな波をモチーフ

サンポート地区の周辺環境とデザインの調和を図るとともに、賑わい感のある開放的な施設を目指しました。既存棟は、玉藻城の石垣と城をイメージし「陸」を表現しており、新設の商業棟は瀬戸内海の穏やかな波のゆらぎをモチーフとし、高松の「海」を表現しています。玄関口であるコンコースを中心に「陸」と「海」の結節点が完結しました。デザインのポイントは、環境性能に配慮し採用した淡いブルーのLow-e複層ガラスにより、水面の表情・きらめきをイメージし、開放感をもたらししています。またガラス面に取り付けた緩やかな波型のアルミルーバーは、見る方向により様々な表情を見せ、街行く人々を楽しませてくれます。屋外広場は曲線のキャンピやシンボリックな膜の大屋根、柔らかい人工芝とウッドデッキ床で構成され、高松駅周辺を利用される多様なお客様にこころぎの場を提供するとともに、開放的な駅前交流拠点として、地域の皆様に積極的にご活用いただける場となります。中央のコンコースは、これまでの落ち着いたイメージに木目の持つ温もりと活気をプラスし、館内の様子がダイレクトに伝わるガラス面と出入口を設けるとともに、エスカレーター新設及び連絡デッキ整備により、既存施設を含めた駅全体の回遊性を高め、今後の賑わいづくりの核となります。鹿島建設株式会社 関西支店建築設計部担当部長 前垣篤志

商環境設計のポイント

人と地域と施設をつなぐ

高松の玄関口として多様な人々を迎え入れ、愛される施設を目指し、香川県産ヒノキ材や伝統工芸品の丸亀うちわなど地域資源を取り入れつつ、来館者と四国とのつながりを、点と線になぞらえてデザインしました。1階は「つながる」をコンセプトに、点がつながり線となる「直線的」なモチーフ、2階はそこに動きを加えた「ゆらめく」をコンセプトに「曲線的」なモチーフとし、瀬戸内海と、そこの穏やかな暮らしをイメージ。交流の場である3階は、「むすぶ」をコンセプトに線が重なる「面的」なモチーフで、人と人とのつながりを表現しました。4階は「思い」を紡ぐ場として、「つむぐ」をコンセプトに、地域の方々の作品を展示するギャラリーを設けました。また、若年層の活躍支援とともに、施設に愛着を持ってもらえるよう、香川短期大学の学生向けに、壁面アートの制作演習や施工現場の見学を実施しました。完成した作品は、4階ギャラリーに展示されます。株式会社スペース大阪本部 クリエイティブ事業部企画デザイン部 龍澤知佳

鹿島・四国開発建設・鉄建JR四国高松駅ビル(仮称)新築他工事特定建設工事共同企業体